

小金井市立保育園の在り方検討委員会 意見・提案シート
(令和6年6月20日開催分)

- 小金井市の中で障害児受け入れの実態について次回以降委員長から提案があったが、障害児という枠に入らないものの、加配が必要な子は相当数いると思われる。文科省の調査では、年々特別な教育的ニーズのある子が増えている。公立園には、民間園で入園をことわられ、公立にしか入れなかった子が複数いる。今後の市の保育のあり方を考える上で、このような児童が安心して過ごせる場が現状どれだけあるのか。どこが受け入れ先となっているのか、まず現状分析をしてはどうか。
- 公立保育園の存在が、民間保育園の経営者、就業者にとって憧れなのか、脅威なのか伺ってほしい。公立保育園をなくしても良いという事は、国の保育の質の確保の責任を民間のみで責任を取れるという事でしょうか？それならなぜ痛ましい保育事故が多発するのでしょうか。教育は研究の成果を使う国の土台であり、ないがしろにすれば必ずくずれる。専門性の保育に責任を持たせる処遇を。必ず。
- 小金井市の市立保育園の在り方を検討するために、保育の現場を見たり、保育士の話の聞いたりしないのでしょうか。現状の公立園の保育を担っているのは現場の保育士です。保育の現場を知らずして正しい検討ができるのでしょうか。検討をお願いします。
 - スケジュールを見ると第4回以降「5つの課題」がクローズアップされています。この検討会のメインに「5つの課題」を持ってくるのは違和感があります。公立園の役割を主におくべきではないでしょうか。
- 会議冒頭にも意見が出ていたのが、委託業者が「補助」という形と説明されながらも実際の進行をほぼファシリテーターが行っていることには、どうしても異和感がある。進行能力の低い委員長であるよりは、進行の為には効果的なものかもしれないが、委員とは立ち位置が違うので、委員の言われた異和感については、ぬぐい切れないものがある。委員長によるレクチャーが行われる為に、第1回は仕方なかったのかもしれないが、次回からは、基本的には委員長に進めてもらいたい。他自治体でも沢山経験のある委員長であるのだから、可能だと思う。
 - 「こども誰でも通園制度」については、沢山の保育関係者から問題が指摘されています。委員長も軽く言及していただきましたが、委員の皆さんにも理解していただきたいと思います。
 - 今後8回の委員会が中味の深まったものになることを望みます。今日の進め方で、核心に達することが可能なのか。以前の策定委員会（「すこやか」の時のこと）のように、表面的な議論できれいな物を作ることにならないか、危惧を覚えます。2025年6月に市長が「見直し方針」を出す為の根拠にするなら、市長が本当に聞きたいことを直線的に議論してもらい必要があるのではないのでしょうか。今日の進め方では、委員各々の認識の濃淡も感じられ、不安しかありません。
 - 会議の進め方として、「すこやか」の時には委員が質問し、事務局が答える、とい

う形になっていて、委員同士の論議がなかったことに、傍聴していて、非常に歯がゆかったことを思い出しました。この会がそうならないことを願います。

○第三者評価に関して、委員長のおっしゃった“評価機関によって高低の違いがあるので、比べることにあまり意味がない”というのは、とてもまっとうな意見です。世間的に、第三者評価が絶対視されがち（行政がそうさせている）ですが、そうではないことを明言されて良かったです。